

オムロン株式会社 2022年度3Q決算
投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）
（2023年1月30日）

<全社業績、経営・戦略>

Q：CFO退任にあたり、日戸さんが考える成果と課題について聞きたい。

A：成果は事業ポートフォリオの最適化をやり切ったこと。一方、より高い成長の実現が課題と考えており、これは、これからの経営チームに引き継いでいく。

Q：JMDCの協業の進捗について、発表されるタイミングを教えてください。

A：今後、各協業テーマの内容について説明する機会を設けたいと考えている。

<IAB 関連>

Q：3Qの売上高は、2Qと比べて円ベースで横ばい、利益は20億円程度減益。

利益率も1.6P悪化している。この背景を教えてください。

A：12月の中国におけるコロナ感染の急拡大による生産稼働率の低下と、中国向け製品の出荷停滞が主な原因。他エリアに回しきれず、一部の製品は在庫となった。

Q：受注残の推移について説明してほしい。

A：受注残は、2Qの終わりからピークアウトしている。

2Qから徐々に減少しているが、今期末から来期への持ち越しも想定している。

<HCB 関連>

Q：中国市場の先行きの変化についてどのように見ているか？

A：3Qはコロナ感染拡大に伴う体温計や酸素発生機の販売が好調だった。4Qは血圧計の需要について、春節後の回復に注視している。今後の中国の高齢化などを踏まえると、中期的には市場は拡大するとみている。

Q：価格適正化を進めているとのことだが、利益率が横ばいになっている背景について教えてください。

A：価格適正化は、個人消費動向などをみて、エリアごとに慎重に判断しながら進めている。

また、新しいデバイスの開発や遠隔診療サービスなどへの戦略投資も継続していることが背景にある。

Q：遠隔診療について現時点の状況について教えてください。

A：遠隔診療サービスは、患者の継続率向上に向けたボトルネックの解消や、病院における使用率向上に向けた業務フローの改善などの取り組みを行っている。事業ポテンシャルは間違いなくあり、着実に事業化に向けてシステム面、仕組み面を改良している。